



# 府立北桑田高等学校の在り方検討会議(第3回)

= 配布資料 =

(平成29年7月6日)

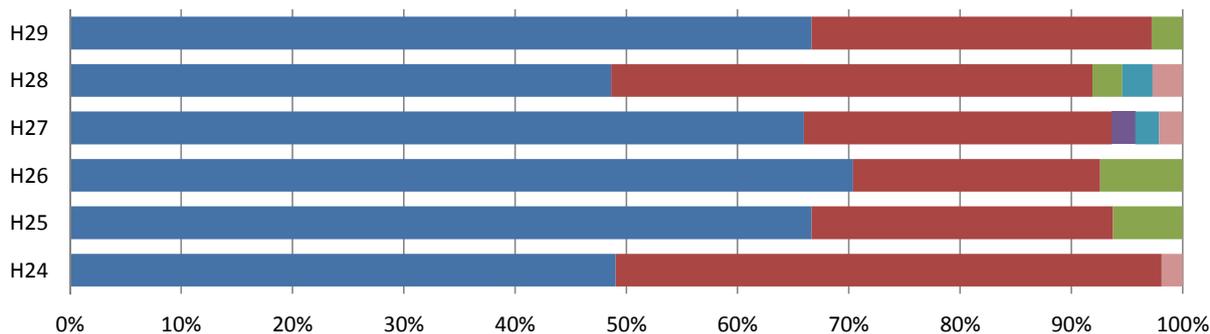
名 称	頁番号
北桑田高校の入学者状況(出身中学校別)	1
地元中学校(周山中・美山中)卒業生徒の進路状況	2
北桑田高校卒業後の進路状況	3
美山分校の状況	4
口丹地域の高校毎の通学区域等	5
口丹地域の中学校・高校の配置及び中学校別在籍生徒数	6

## 参考資料

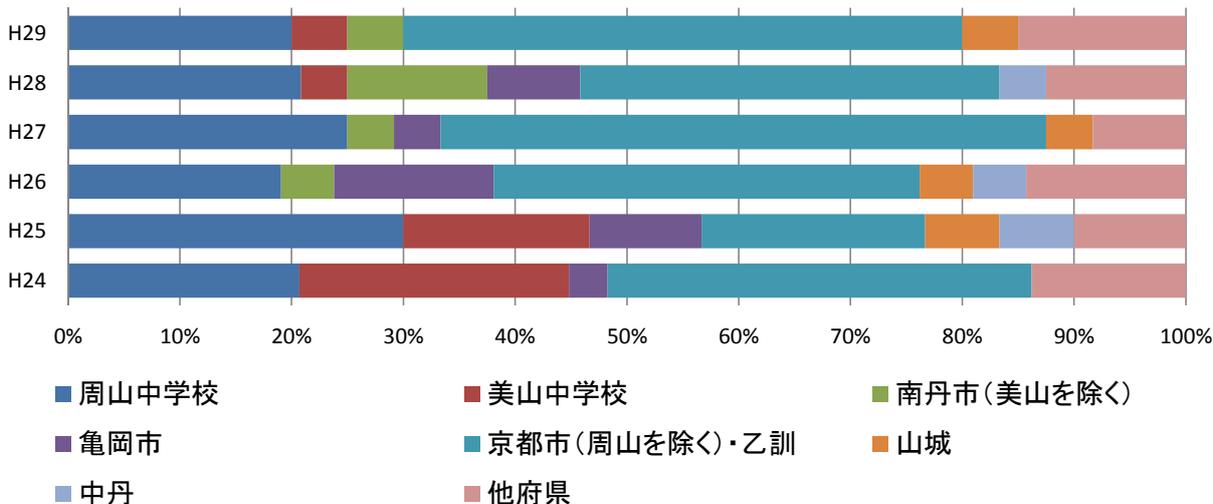
第1・2回検討会議の主な意見(まとめ)	—
---------------------	---

# 北桑田高校の入学者状況（出身中学校別）

## ◆普通科



## ◆森林リサーチ科



年度	普通科						森林リサーチ科						総計					
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H24	H25	H26	H27	H28	H29
周山中学校	26	32	38	31	18	24	6	9	4	6	5	4	32	41	42	37	23	28
美山中学校	26	13	12	13	16	11	7	5			1	1	33	18	12	13	17	12
南丹市(美山を除く)		3	4		1	1			1	1	3	1		3	5	1	4	2
亀岡市				1			1	3	3	1	2		1	3	3	2	2	
京都市(周山を除く)・乙訓				1	1		11	6	8	13	9	10	11	6	8	14	10	10
山城								2	1	1		1		2	1	1		1
中丹								2	1		1			2	1		1	
他府県	1			1	1		4	3	3	2	3	3	5	3	3	3	4	3
合計	53	48	54	47	37	36	29	30	21	24	24	20	82	78	75	71	61	56
募集定員	80人	70人	80人	80人	60人	60人	30人	30人	30人	30人	30人	30人	110人	100人	110人	110人	90人	90人
定員割れ人数	27人	22人	26人	33人	23人	24人	1人		9人	6人	6人	10人	28人	22人	35人	39人	29人	34人

(人)

○普通科の入学生は地元の中学校出身者が大半である。

○森林リサーチ科は地元以外の生徒が半数を占め、平成26年度からは7割を超えている。

○普通科、森林リサーチ科(H25除く)ともに入学者が募集定員に満たない状態が続いている。

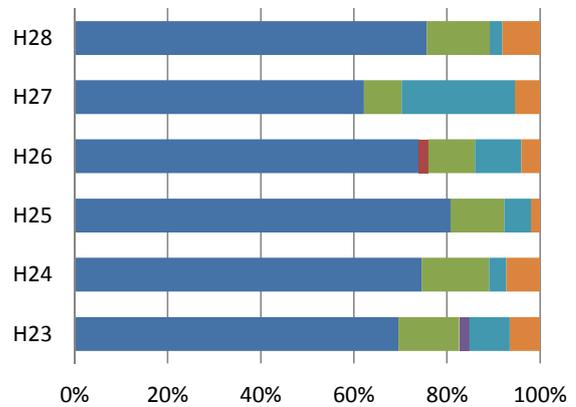
# 地元中学校（周山中・美山中）卒業生徒の進路状況

## ◆周山中学校卒業生徒の進路状況

年度			H23	H24	H25	H26	H27	H28
全	北桑田	普通	26	32	38	31	18	24
		森林リサーチ	6	9	4	6	5	4
		計	32	41	42	37	23	28
日 制	口丹通学圏					1		
	京都市・乙訓通学圏		6	8	6	5	3	5
	中丹・丹後通学圏		1					
	私立高校（府外も含む）		4	2	3	5	9	1
	その他		3	4	1	2	2	3
合計（卒業生徒数）			46	55	52	50	37	37

※口丹通学圏は北桑田高校を除く。

（人）

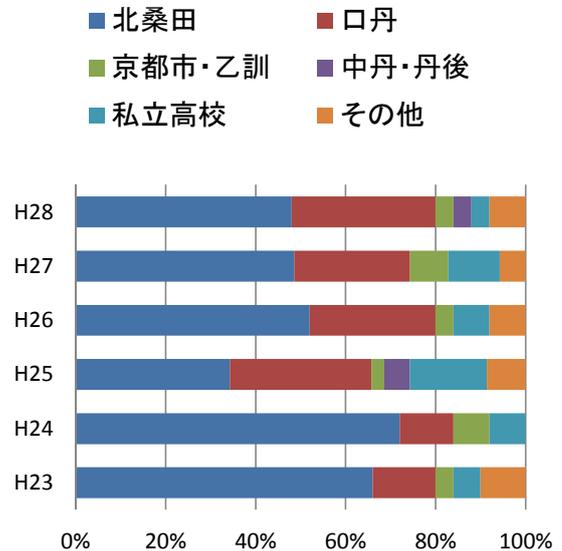


## ◆美山中学校卒業生徒の進路状況

年度			H23	H24	H25	H26	H27	H28	
全	北桑田	普通	26	13	12	13	16	11	
		森林リサーチ	7	5			1	1	
		計	33	18	12	13	17	12	
日 制	口丹通学圏	亀岡 普通	3	2	3	1	2		
		亀岡 数理科学			2	2	2		
		南丹 総合学科	1		1	2		2	
		園部 普通	2		4		3	6	
		京都国際	1	1	1	2	1		
		農芸 農業学科群					1		
		計	7	3	11	7	9	8	
		京都市・乙訓通学圏		2	2	1	1	3	1
		中丹・丹後通学圏				2			1
		私立高校（府外も含む）		3	2	6	2	4	1
その他		5		3	2	2	2		
合計（卒業生徒数）			50	25	35	25	35	25	

※口丹通学圏は北桑田高校を除く。

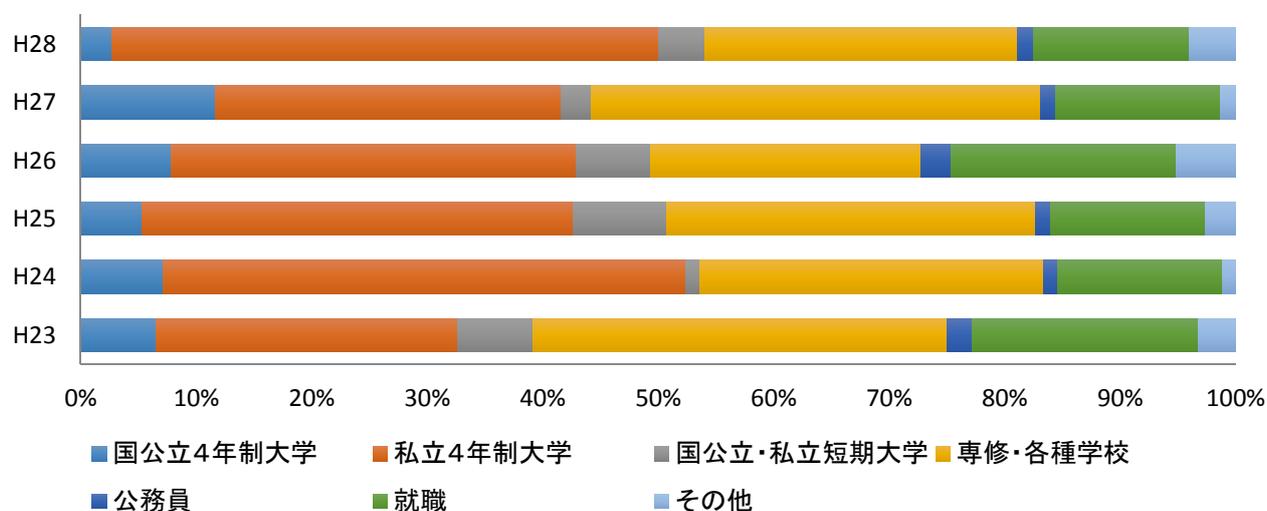
（人）



○ 周山中学校は京都市・乙訓通学圏の高校や私立高校への進学、美山中学校は口丹通学圏の他の府立高校への進学が一定数いる。

# 北桑田高校卒業後の進路状況（本校）

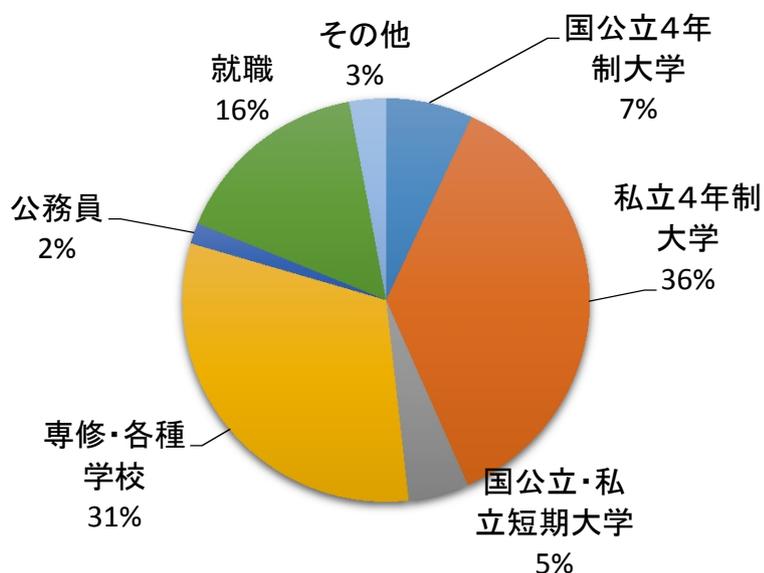
## ◆過去6年間の進路先別人数



年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28
国公立4年制大学	6	6	4	6	9	2
私立4年制大学	24	38	28	27	23	35
国公立・私立短期大学	6	1	6	5	2	3
専修・各種学校	33	25	24	18	30	20
公務員	2	1	1	2	1	1
就職	18	12	10	15	11	10
その他	3	1	2	4	1	3
合計	92	84	75	77	77	74

(人)

## ◆各進路先の占める割合（6年間平均）



## 美山分校の状況

課程・学科	昼間定時制 農業科・家政科							
生徒数 (5月1日現在)	年度	1年	2年	3年	4年	計	生徒の様子	
	H26	5	14	13	7	39	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級に在籍していた生徒や、中学校の時に不登校であった生徒など、支援を要する生徒が在籍している。</li> </ul>	
	H27	10	5	12	12	39		
	H28	8	9	4	12	33		
	H29	8	8	9	3	28		
進路状況 (卒業年度の3月末現在)	卒業年度	大学・短大	専修・各種学校	就職	その他	計	主な就職先等	
	H25 (H26.3)	0	5	4	6	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元就職がほとんどである。</li> <li>・製造業が多いが、一部福祉関係にも就職している。</li> </ul>	
	H26 (H27.3)	1	1	3	2	7		
	H27 (H28.3)	1	1	3	2	7		
	H28 (H29.3)	0	4	6	1	11		
学校の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間等を活用して学び直しとソーシャルスキルの向上に取り組んでいる。</li> <li>・就労支援として、アルバイトを奨励しており、生徒の多くが就労している。</li> <li>・特別支援員（非常勤）2名を配置し、支援を要する生徒の実習での安全確保や学習支援に努めている。</li> </ul>							

### ◆出身中学校別入学者数

年度	農業科・家政科						平均	比率
	H24	H25	H26	H27	H28	H29		
美山中学校	2		1		1	1	0.8	8.3%
周山中学校	3	1	1	1	1	2	1.5	15.0%
南丹市（美山を除く）	5	3	1	6	2	4	3.5	35.0%
京丹波町	3		1	2			1.0	10.0%
亀岡市	2	5		2	3	1	2.2	21.7%
京都市（周山を除く）・乙訓	3	1			1		0.8	8.3%
他府県			1				0.2	1.7%
合計	18	10	5	11	8	8	10.0	

(人)

○地元の美山中学校からの入学者は、この5年間で5名のみで入学生の1割に満たない。

○南丹市(美山を除く)、亀岡市からの入学生が5割以上を占めている。

## 口丹地域の高校毎の通学区域等

### [全日制課程]

学校名	学科	通学区域	
		通学圏等	学区
北桑田	普通科	口丹通学圏	京都市(周山中学校の通学区域に限る。) 南丹市(美山中学校の通学区域に限る。)
	森林リサーチ科	府内全域	—
亀岡	普通科	口丹通学圏	亀岡市
	普通科 (美術・工芸専攻)	京都市・乙訓通学圏 口丹通学圏 ※調整区域:山城通学圏、中丹通学圏、丹後通学圏	—
	数理科学科	府内全域	—
南丹	総合学科	亀岡市の区域 ※調整区域:京都市・乙訓通学圏、山城通学圏、 口丹通学圏(亀岡市の区域を除く)	—
園部	普通科	口丹通学圏	南丹市(他の学区に属する地域を除く。)
	普通科(中高一貫)	—	—
	京都国際科	府内全域	—
農芸	農産バイオ科 環境緑地科	府内全域	—
須知	普通科	口丹通学圏	京丹波町
	食品科学科	府内全域	—

### [定時制課程] (通学区域は府内全域)

学校名 (分校名)	学科
北桑田 (美山)	農業科
	家政科

★口丹通学圏の高校(普通科)にあつては、当該高校の学区を除く通学区域から入学できるのは、普通科募集定員の20%以内とする。なお、前期選抜については、中丹・丹後通学圏からも志願できる。  
例)北桑田高校の場合:普通科募集定員60名  
・・・周山・美山中通学区域以外から入学できるのは12名まで

### (参考)口丹地域から志願可能な管外の高校・学科[抜粋]

学科	学校名	学科	学校名	学科	学校名
農業※	桂	情報	京都すばる	その他専門	南陽
	綾部(東)	福祉	京都八幡(南)		福知山
	峰山(弥栄)	体育	乙訓		西舞鶴
工業	田辺	音楽	京都堀川音楽		西京
	工業	美術	銅駝美術工芸		京都工学院
	峰山	その他専門	山城		堀川
	京都工学院		烏羽		紫野
商業	京都すばる		嵯峨野		塔南
	大江		桃山		総合
水産	海洋	城南菱創			
家庭	峰山(弥栄)	京都八幡(南)			

このほか、普通科(スポーツ総合専攻、総合選択制、単位制)で志願できる高校が複数有り  
※農業科のうち桂及び綾部(東)は対象外区域有り

# 口丹地域の中学校・高校の配置及び中学校別在籍生徒数



■平成29年度 出身中学校別高等学校の在籍生徒数 単位:人

高校(学科・生徒総数)	中学校	亀岡市立								南丹市立			京丹波町立			京都市立	左記以外	
		亀岡中学校	別院中学校	南桑中学校	育親中学校	亀岡川東学園	東輝中学校	大成中学校	詳徳中学校	美山中学校	園部中学校	八木中学校	殿田中学校	蒲生野中学校	瑞穂中学校	和知中学校		周山中学校
北桑田高校	普通	全119人	1							39	1		1				73	4
	森林リサーチ	全68人						2	1	2	1		4				15	43
亀岡高校	普通	全712人	153	9	74	39	20	171	77	57	3	36	26	19	14	3	6	5
	普通(美術・工芸)	全89人	6	1	6	3	3	9	6	4		6	2	2	1	3		37
	数理科学	全84人	18	1	2	2	1	9	4	6	3	7	6	7	6	2	1	9
南丹高校	総合学科	全526人	90	10	73	25	21	112	76	31	4	18	17	6	18	3	7	15
園部高校	普通	全285人*	2		1	1		2		2	9	154	31	33	15	23	11	1
	京都国際	全70人	4		7	3	1	7	5	3	2	8	5		12	1	6	6
農芸高校	農業学科群	全272人	15	3	19	17	7	14	13	9	1	19	7	2	3	3		140
須知高校	普通	全118人	1						3			4			56	43	11	
	食品科学	全75人	2					1	2	4		5	1	2	26	9	7	16
北桑田高校美山分校	農業	全16人			1				1		1	4	4	1			2	2
	家政	全12人	1			1					2	1		3	1		2	1

・附属中学校からの進学者数を除く。

平成29年5月1日現在

・亀岡市立亀岡川東学園は前身の高田中学校卒業生を含む。

## 府立北桑田高等学校の在り方検討会議第1・2回主な意見（まとめ）

### 地元中学生の進路希望

- ・公立高校への進学が非常に多く、また、普通科志向が非常に強く表れている状況である。普通科で学ぶことはもちろんだが、例えばこんな部活動があるからこの学校に行きたいという希望もあるし、通学の利便性として、仕事に向かう保護者の車に乗って行きやすい高校を、という選択もある。北桑田高校へ通うか、園部方面に向かうかという選択をされている保護者が最近多い。道路状況も変わってきたので、より便利であること以上に、保護者の費用負担が少ない方面へということも高校選択に関わっているという状況である。
- ・他の京都市内の地域と比較すると、他の地域（京都市・乙訓通学圏）には多くの受検できる選択肢があるが、当該地域では選択肢が限られている。普通科に関しては、基本的に全て北桑田高校を希望している。ただ、京都市内の他地域への進学となると実際はかなりお金がかかり、実際問題として他地域への進学は厳しい状態かと思うので、北桑田高校の更なる充実を求める声が強いの子どもたちや保護者の意識ではないか。
- ・保護者の教育に対する意識も随分変わってきたのではないかと感じる。市街地の方へ通うニーズとしては、水泳を習ったり、スポーツを目的に通う子どもが多かったが、この頃は、学習塾に行く子どもが増えてきた。学習塾へ行くということは、次の選択肢を求めておられるご家庭もあるのではないかと。そのような中で、周山中学校、北桑田高校という選択肢が若干変わるのではないかとしたりもする。やはり、部活動で自分のやりたい活動ができにくいということは課題だと思っている。
- ・森林リサーチ科への進学が4分の3程度が京都市の他地域等で地元の子どもの選択しないことについて、今後のことを考える場合にその点を加味して議論していく必要がある。
- ・普通科志向が非常に強いということもあるが、何より、地域産業として森林に関わる人がかなり少なくなってきたということで、森林に関わる仕事がなかなか見えにくい部分がある。
- ・現状のまま北桑田高校の通学区域を京都市・乙訓通学圏に変えてしまうと、生徒の選択肢が一気に広がり、多少お金がかかっても京都市内の他の高校を受けさせようという保護者が増えるのは間違いないと思う。一方、京都市・乙訓通学圏内の中学生にとっては高い交通費をかけて北桑田高校の普通科に行きたいかという、現状ではあまり期待できないため、出て行く方が多くなると思う。北桑田高校の普通科をより魅力や特色のある学科にどうしていくのかということが最大のポイントになってくる。
- ・子どもたちには多様なニーズがあり、一部の生徒は中期選抜で第1志望以外で本校に戻ってきている状況であるため、地域の中学生、小学校高学年の児童や保護者の方々へのアンケートを行っていただきたい。客観的な視点として魅力ある北桑田高校づくりに活用したい。

## 魅力ある学校づくりに向けて

### 【検討の視点】

- ・ 中学3年生の約98%が高校進学を果たしているという現状からすれば、高校教育は極めて義務教育に近い後期中等教育となっている。その状況を考えれば、当地域からその機会と場がなくなるとすることは極めて考えにくい。つまり、どんなに志望者が少なくなろうが、後期中等教育を受ける機会が必要ではないかと思っている。
- ・ どのようにこの地域に後期中等教育の場と機会を考えていくのかについては、今後の地域社会の在り方、将来の地域を担う人間形成、人材育成という視点から北桑田高校の今後を考えること、多様な生徒、保護者の進路希望の実現という観点からそのニーズにマッチした在り方を考えていくこと、それぞれの立場からの検討が必要。
- ・ 北桑田高校の将来を考える場合、森林リサーチ科はユニークで特色のある学科である。将来、この特色ある学科をどのように核として重視し、北桑田高校を創り直していくかが一つのポイントになると思う。
- ・ 進路決定状況を見ると大学、短期大学、専門学校等に進学する生徒の割合が思った以上に多い。これは、理工系の学びというか「悠久の森プロジェクト」や和蠟燭といったものに着目しながら、サイエンスの芽をこの時期から培われているからこそ、大学もこのような能力のある生徒を求めるのかと思う。高校生に何を求めるか、すなわち、高校を卒業して就職をするという技術力をつけるのか。大学に行く力をつけるのか。あるいは、その双方を含めた選択ができる能力を求めるのかという点を明確にする必要がある。
- ・ 普通科の通学区域について、周山中学校の子は北桑田高校に決まっている。美山中学校の子も北桑田高校に決まっている。このように通学区域が決まっていると、母数となる子どもの数が減ってくるわけだから、北桑田高校の生徒数は当然減ってくる。外部から招聘することを考えていかないといけないのではないか。現在、普通科の定員割れが大きな問題であり、普通科をどのようにして増やすかが大切ではないか。

### 【教育内容・寮など】

- ・ 北桑田高校に入学して、来てよかったという生徒の声、保護者の声を特に京北・美山以外の保護者の方から聞かせてもらっている。環境面についても、先生の教育指導に関しても、他の高校に劣っているとは思っていない。少子化と言うが環境面も含めて良い高校には存続してもらいたいし教育委員会にもそういう考えを持ってほしい。
- ・ 森林リサーチ科から国公立大学に進学している生徒も多い。自然環境豊かな北桑田高校で、部活動などでも目標を持って3年間しっかりと先生方に育てていただいた子が国公立大学に行けるという成果を出されている。そうしたことや自転車部も含め、森林関係、自然資源関係を学ぶ課程の学科があるということの大切さをアピールして、成長させていけば良いのではと思う。
- ・ 林業科なので一見間口が狭く思われるが、今後はもっと広い視点で、環境教育、例えば緑化デザインや環境に即した地域経営という視点で運営していけば、もっと興味を持った子が集まってくるのではないか。

- ・今の森林リサーチ科のままでこれからも大丈夫かという点は考えなければならない。2学科の維持が無理なら1つにして普通科とし、その中に森林リサーチよりも少し幅が広く、また、学問的に深く勉強できるようなコースを考えてみる。今の若者が「あんな高校なら行ってみたい。」と思うような魅力ある教育内容をどのようにつくっていくか議論が必要。学校の財産である森林リサーチ科で取り組んでできた内容を生かし、併せてレベルの高い普通科をつくっていく。学科構成、コースの構成、内容について本格的に検討しなければならない。
- ・小中一貫教育との接続や、専門学科を志望するような生徒がこんなコースが北桑田高校にあれば京都市内の他の高校を受けずに第一希望で北桑田高校を受けたい、となるようにコースを充実するなどすれば、他地域から入ってくることも期待できるのではないかと思う。
- ・魅力ある北桑田高校にしていくためには普通科の特色出しが絶対に必要ではないかと思う。英語教育について言えば、地域を愛する心と世界的な視点を持つ子どもを育成していくという京都市の小中一貫校の教育理念とその延長線上に北桑田高校の普通科があればありがたいと思う。
- ・北桑田高校に行きたいという生徒はいるが、寮が一杯で入れないという状況の中で通ってきている生徒もいるし、諦めた生徒もいると聞いている。行きたいという生徒がいる以上、寮を増築するなどして、希望する学校に子どもたちが入学できる環境をつくってもらいたいと思う。
- ・寮については、今年度の選抜では希望者が入寮定員より少なかった。費用的な課題もある。様々な家庭の状況がある中で、寮費が思っている以上に経済的な負担になっている現状がある。その点について地域では要望を出しているのだが、寮の設置だけではなく具体的な支援も考えてもらわないと、仮に寮があっても他地域から来てもらうのはなかなか厳しい。
- ・「学舎制」はなかなか興味深い形だと思う。一例であるが、園部高校を核として北桑田学舎、須知学舎とした学舎制にすることで、教職員を共有したり、園部学舎と北桑田学舎の間に連絡バスを走らせて、週末の部活動での活用や園部高校の京都国際科の専門的な授業、逆に北桑田高校の専門的な授業を双方の生徒が受けられるようにすれば、小規模校における専門性の確保ができる可能性があるのではないかと思う。

## 通学の利便性

- ・通学の利便性の問題がある。美山町で言えば、下佐々江まで行って京北方面に行くか、それとも園部方面に行くかということ、家庭の都合等もあって園部方面へ行く。そして兄弟の上の子がそちらへ通うと下の子も同じように進む現状がある。地域のことを学んで地域の良さを学ぶことによって、北桑田や美山の自然の豊かさに今までとは違う価値観を持っている子どもは多くいるが、うまく北桑田高校への進学につながっていかない現状もあるのではないか。
- ・通学圏を拡大しても、園部方面から北桑田高校までの直通バスはないし、乗り継ぎができるバスもないと思う。拡大することはとても良いと思うが少なくとも通える公共交通機関がない限り志願者数は増えないと思う。

## 地域における高校の役割・在り方

- ・現在、総務省が地方創生、地域おこしを掲げている中、地域に高校がないとなると、その地域に住んで子どもを育てようという気が少し下がってしまうのかなと思う。そういう意味では、高校がきちんと地方にあり、高校を中心にその地域が振興されるということが非常に大切だと感じている。中学生の段階では森林に関する環境の大切さといったことは、まだ気がつかないことがあるとは思いますが、ぜひ森林リサーチ科のようなユニークな学科を残してもらいたいと思う。
- ・27年度から南丹市、亀岡市、京丹波町、綾部市といった森のある市町を中心に、「森の京都」という振興策を展開してもらっている。そうした中、今までにない林業への風が吹いてきていると思う。国立公園の関係にしろ、「森の京都」関係にしろ、魅力ある林業づくりに行政として取り組んでいきたいと考えている。
- ・美山では小学校が統合され5校が1校になったがそれが嫌で京都市内に引越された方もいる。これ以上美山が限界集落化しないよう、何としても地域に小学校・中学校・高校を残してほしい。
- ・子どもの数が減れば、どうしても学校運営は難しくなってくる。それにも関わらず存続させて、質の高い教育を維持していくためには、美山・京北の若者が増えるという状況をどうつくっていくのかということと絡めて考えなければならず、高校さえ残せば良いということではない。
- ・森林リサーチ科の生徒数が減少しているのは、地域産業の変化にも大きな原因があると思う。林業がほとんど壊滅に近い状況で衰退してきた。本来、北桑田の地域は林業がメインの産業であったにもかかわらず、大きく経済情勢が変わってきた。今なお地元の林業・山林を維持し、育てていこうという方もおられるし、なんとか林業を育てていこうという若者もたくさんいる。行政にもお願いしたいのだが、南丹市、京都市、京都府で、地域創生でも良いのだが、いわゆる林業関連の企業を地元へ誘致するような動きをとってもらいたいことも、北桑田高校森林リサーチ科の活性化のPRの一つの目玉になるのではないかと考えている。

## 地元地域・自治体等からの支援

- ・JR西日本に京都市と京都駅から北桑田高校行きへのバス路線の延伸をお願いしているが、こうした形がよければ引き続き要望していきたい。北桑田高校が京都市右京区にあるということをご存じない方が多い。京都駅において、北桑田高校前行きのバスを乗り入れていただくことで、大きな宣伝になると思うし、京北として何とかこれを進めたいと願ってきた経過があるということをご承知いただきたい。(現在周山から北桑田高校までの京北ふるさとバスの料金は無料)
- ・まだまだ潜在的な希望者はいるのだと思う。京都市教育委員会としても、できることはしていきたいと思っており、どういう方法が良いのか意見を聞きながら府教育委員会と十分な連携をとって進めていければと思っている。
- ・京北地域では公共交通としてふるさとバスを運行しているが、北桑田高校生徒の多くが朝と夕方に保護者に送迎してもらっており利用者が少ないことが課題になっている。そのため、北桑田高生については通常もっと高い運賃の区間も上限200円で通学できるようにしたり部活動終了後の時間に運行するなど調整している。ほぼ恒久的な制度にしていきたいと思う。今ある様々な仕組などを北桑田高校を守るために、あるいは生徒や保護者にとって良い方向となるよう改革していく姿勢で取り組んでおり、今後も様々な応援ができればと考えている。
- ・島根県立隠岐島前高校のように町全体でバックアップした取組と併せて高校の魅力づくりをしていかないと難しいと思う。北桑田高校は京都市に立地しているが、府立学校なので設置者が違うという難しさがあると思うが、小学校・中学校・高校を一貫校にする。美山もほぼ一貫校のようなものなので、施設が分離していてもすぐ行ける。京都市や南丹市での英語の取組とも関連づけて特色を出していけば良いのではないかな。
- ・南丹高校にはテクニカル工学系列では、学ぶ生徒への支援を行政と高校が一体となって、南丹管内にあるものづくり企業や食品企業に学びの支援、就職支援、あるいは技術的なアドバイス等をしてもらっている。このように行政側が学校を支える手段や考え方もある。